

World Vision



Closure report 2020

終了報告書

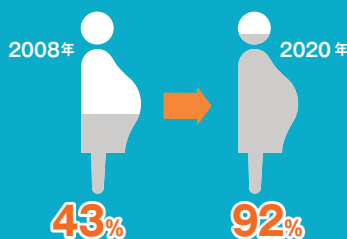
カンボジア
ポニャー・ルウ地域開発プログラム
CAM-182126 (2006年度～2020年度)



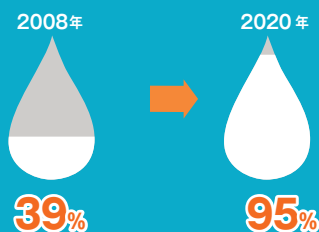
ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

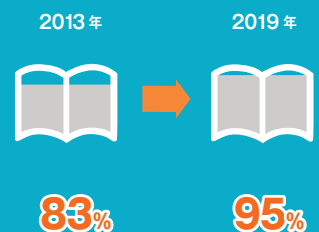
産前健診を
4回以上受けた妊婦



衛生的なトイレを
利用している人



小学校から中学校へ
進学する子どもたち



Water



水衛生

衛生的な水を飲めるようになりました

水を買う余裕がない貧困家庭は、家から1km以上離れた場所にある溜池の水を飲んでいたので、汚染水による病気によくかかっていた。水汲みは女性や子どもの仕事だったため、子どもたちは学校を休んだり、水汲み中に虐待・暴力を受けるリスクに直面したりしていました。また、家にも学校にもトイレがなかったため、野外排泄が当たり前になっていました。ご支援を通じ、衛生的な水衛生施設の整備や、衛生についての意識と行動変容に関する研修を行ってきました。煮沸や浄水器の使用といった処理方法を学んだことで、貧困家庭も衛生的な水を飲めるようになりました。また、衛生的なトイレも整備され、支援対象地域にある34の村のうち、実に31の村が野外排泄ゼロの村として、地方行政から正式に認定されました。教員や地域のリーダーたちを対象にした衛生指導に関する研修により、支援終了後も地域の人々の衛生状態を良好に維持できると期待されます。



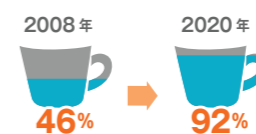
支援前 このような溜池の水を飲んでいました



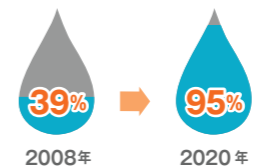
支援後 石けんで手を洗う習慣が身についています

成果

煮沸や浄水器の使用など衛生処理した水を飲んでいる家庭



衛生的なトイレを利用している人



Education



教育

保護者が教育の意義を理解し、教育水準が上がりました

多くの子どもたちが小学校に入学していましたが、教育の意義を理解していない親が多く、家事の手伝いや兄弟の面倒を見るために、小学校を中途退学する子どもが少なくありませんでした。教員の給与が低く、生活のために副業を行っていたため、教育の質も低くなっていました。ご支援を通じ、教員へは教材開発、教授法、学校運営委員会の運営などに関する研修、保護者には教育の大切さを啓発する活動(入学促進キャンペーン、読書の日キャンペーンなど)を行いました。また学校の建設・修繕を通じ、教育環境の整備を行ってきました。2020年の調査では、ポニャー・ルウ郡全体の就学率が87%に対し、支援を行ってきた小学校10校の就学率は94%と同郡内でも教育水準が高くなり、地域の子どもたちの学習環境は改善されました。



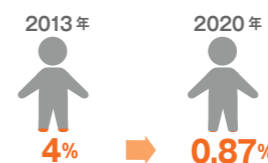
支援前 女の子は糸つむぎを習い、生活のために働いていました



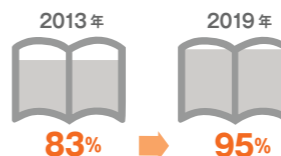
支援後 学校の設備が整い、より良い環境で学習できています

成果

小学生の中途退学率



小学校から中学校へ進学する子どもたち



Economic Development



生計向上

収入が改善され、様々な分野に良い影響を与えています

地域には湖や河川などが少なく、乾期には干ばつに見舞われることが多くありました。地域の世帯収入の大部分は米の生産によるものでしたが、2006年は干ばつにより70%の家が被害を受け、期間は少なくとも3〜6カ月におよびました。農業技術、道具、灌がいなどが不足し、狭く土壌の痩せた耕作に適していない土地も一定数あり、それにより農業生産性は低く、村の世帯平均所得は年間100ドルしかありませんでした。ご支援を通じ、農業技術に関する研修や生計向上のための職業訓練、また鶏などを提供してきました。また収入向上のための貯蓄グループにより、地域住民は小規模ビジネスや村の幼稚園を始められるようになりました。世帯収入は改善され、子どもたちの教育費や医療費を賄えるようになり、教育や保健・衛生状態の改善に貢献しました。



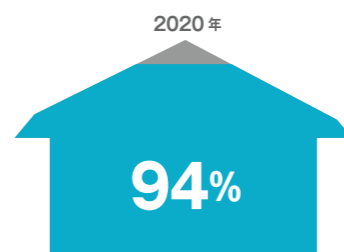
支援前 家の補修ができていない家庭も数多くありました



支援後 農業技術研修を受け、質の高い野菜を作れるようになりました

成果

収入が増え、外部からの援助を受けず、子どもの学費を支払えるようになった世帯



Health



保健・栄養改善

子どもたちが健康に成長できています

地域の多くの家庭が貧しく、子どもの健康や衛生に関する知識に乏しかったため、子どもたちは栄養不良(低体重)に陥っていました。地域の保健センターは人々が住んでいる場所から遠く離れており、道路状況も悪かったため、夜間や雨期に保健センターに行くのは困難な状況でした。適切な妊産婦のケアと、保護者の育児に関する知識を向上させるため、助産師や村落保健支援グループ(コミュニティ・ヘルス・ワーカー)を対象に研修を行いました。また、家庭訪問や栄養価の高い食事の作り方に関する研修を行いました。保健センターの建設や道路の整備、保健への啓発活動を通じ、定期健診や予防接種のために、地域住民が保健センターをより頻繁に訪れるようになりました。今では、2歳未満児のうち91%が三種混合とはしかの予防接種を受けています。



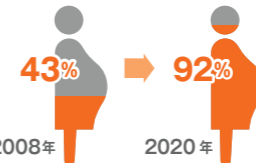
支援前 子どもたちは食前に手を洗わずに、栄養バランスに偏りのある食事をとっていました



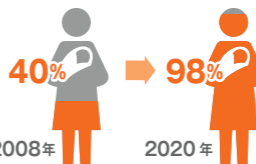
支援後 子どもたちが栄養価の高い食事を取れるようになりました

成果

産前健診を4回以上受けた妊婦



専門技術をもつ助産師のもとで出産した母親



マネージャーからのごあいさつ



ポニャー・ルウ地域
開発プログラムマネージャー
ダラ・トン

ポニャー・ルウ地域のためにご支援くださった皆さまに心から感謝いたします。活動開始当初は、5歳未満の子どもたちが安心して成長できる環境が整っていませんでした。安全で清潔な水を得られなかったり、教育の質が低かったりと、さまざまな問題を抱えていました。皆さまのご支援により、保健・栄養改善、水衛生、教育の状況を優先的に改善することができました。長きに渡りポニャー・ルウ地域のためにご支援くださり、本当にありがとうございました。以前のポニャー・ルウ地域のように、支援を必要としている地域は世界中にまだまだあります。ぜひ、ご支援を継続いただければ嬉しく思います。

地域代表者からのごあいさつ



女性・児童委員と
農業協同組合長
チア・サロム氏

地域住民を代表し、皆さまの長きに渡るご支援に感謝いたします。ご支援により、大きく2つの変化がありました。1つは、さまざまなインフラが整備されたことです。特に水衛生施設の整備により、地域や学校で安全な水を手し、トイレを使用できるようになり、すべての人々の健康が守られるようになりました。もう1つは、母親たちが病院で出産し、健診を受けるようになったことです。親は子どもたちの権利を理解し、大切にできるようにもなりました。これからもワールド・ビジョンから学んだことを実践し続けることで、より良い生活を送れるように地域住民同士、助け合っていきたいと思っています。私たちの地域と生活を、物質的にも精神的にも支えてくださり、本当にありがとうございました。

皆さまとともに歩んだ 15年間の支援と成果

準備期
2006年度
▼
2008年度

- ◎ 地域政府や地域住民との相互理解・関係構築
- ◎ 事業対象地の状況調査
- ◎ 事業計画の立案、事業実施体制の整備



支援開始当初の子どもたち



地域の課題を話し合う住民たち

第1期
2009年度
▼
2012年度

- ◎ 保健サービスの利用推進と、子どもや妊婦への予防接種や定期健診の実施
- ◎ 農業の生産性や収穫量の向上のための研修
- ◎ 貯蓄グループの設立と、貯蓄グループのリーダー育成
- ◎ 手洗いや安全な飲料水、適切な衛生行動などの啓発・実践と、家庭や学校にトイレの設置
- ◎ 子どもクラブでの子どもの権利や、家庭内暴力の予防についての啓発



妊産婦健診の様子



学んだ知識を活かし、家で手洗いを実践

第2期
2013年度
▼
2017年度

- ◎ 子どもクラブでのリーダーシップ研修の実施
- ◎ 保護者や地域のリーダーへの「子どもの肯定的なしつけ」に関する研修の実施
- ◎ 妊産婦への母子保健や栄養価の高い食事の作り方に関する研修の実施
- ◎ 助産師・保健師への、妊産婦の健診や産前・産後ケアに関する研修の実施
- ◎ 家庭内暴力とその防止についての研修の実施
- ◎ 子どもの保護やライフ・スキル教育のための青少年グループの設立
- ◎ 安全な水の供給と、ろ過や煮沸などの水処理についての啓発活動



安全な水に関する啓発活動に使うカードを書いている様子



教員を対象に「子どもの肯定的なしつけ」に関する研修の様子

第3期
2018年度
▼
2020年度

- ◎ 地域のリーダーや住民を対象に支援終了後の地域の自立に向けた各種会合
- ◎ 地域内の小グループの能力強化研修
- ◎ 保健センター運営委員会との定期ミーティングを通じた保健サービスの改善
- ◎ 子どもの保護のための青少年グループ、教師グループの組織と、地域住民への啓発活動
- ◎ 産前・産後健診や、5歳未満の子どもと保護者の健康に関する啓発活動



保健センターでの定期ミーティング



農業支援センターの開設

支援を受けたチャイルドのストーリー

将来は、支援を通じて学んだ
ビデオ編集の仕事がしたいです

ディムさん
(18歳)

ポニャー・ルウ地域で育ったディムさんは現在、プノンベンの大学で学んでいます。ディムさんが、支援を受ける前の生活について話してくれました。

「父はよく酒を飲み、家族に暴力をふるっていました。両親は小さな土地で農業をし、収入は十分にありませんでした。小学校も遠かったので、私も含め村の子どもたちは6歳になっても小学校に入れませんでした」

2009年にチャイルドとして登録され、地域の変化を感じられるようになったそうです。

「ライフ・スキルや情報技術を学びました。子どもの保護のための地域ボランティアに選ばれ、ほかの子どもたちのために働くこともできました。両親は家庭内暴力がおよぼす悪影響を学ぶ研修に参加したり、近所の人たちと一緒に井戸水をくみ上げ、支援で得たる過フィルターで浄水したりしていました。父は支援を通じ、家族に暴力を振るうこともなくなり、今では家族仲良く暮らすことができます」

最後にスポンサーの皆さまへの思いと、将来の夢を教えてくださいました。

「あんなに暗かった私の人生が、ご支援のおかげで変わり、高校を卒業できました。今では将来への希望を持ちつつ、「かつての私」のような子どもたちのサポートもしています。私は今、電話会社でアルバイトをしながら、支援を通して学んだ映像技術について勉強しています。将来は、ビデオ編集の仕事をするのが夢です。私の人生を豊かなものにしてくださったスポンサーの皆さまに心から感謝します」

